

2025 年度
一般社団法人全日本学生バドミントン連盟
第一回社員総会

日時：2026 年 2 月 15 日（日）

時間：10：00～

場所：Web 会議（zoom）

出席者 理 事 会；代表理事会長（議長）・常務理事副会長・常務理事
監 事；会計監事・業務監事
社 員；設立時社員・地区学連会長・地区学連委員長
学 生 役 員；全日本学連委員長・全日本学連副委員長
会 計；全日本学連会計担当者
オブザーバー；来年度全日本学連3役委員

議 事 録；総務部（臼井）

署 名 人；会長・出席常務理事

その他の審議事項及びその他については議案書目次に掲載

(一社) 全日本学生バドミントン連盟

○ 社員総会次第

2026年2月15日(日) 10:00～

司会：委員長 白井紫音

- ・ 出席者確認
- ・ 定数及び議決数確認
- ・ 開始にあたり 代表理事・会長 北見正伸

4 ページの議題目次参照

	役職	出席者	出席状況	備考
理事会	代表理事会長(議長)	北見 正伸	出席	
	常務理事副会長	平野 泰宏	出席	
	常務理事	井上 翼	出席	
	常務理事	有吉 晃平	出席	
	常務理事	大束 忠司	出席	
	常務理事	古財 和輝	出席	
	常務理事	渡辺 英次	出席	
監事	会計監事	町並 美保	出席	
	業務監事	喜多 努	出席	
各地区 会長 (社員)	北海道学連会長	谷 博文	出席	
	東北学連会長	千葉 陽子	出席	
	関東学連会長	平野 泰宏		
	関西学連会長	竹廣 良司	委任状の提出	有吉 晃平氏に委任
	中部学連会長	佐藤 荘二	出席	
	中四国学連会長	北脇 康治	出席	
	九州学連会長	井上 翼		
各地区 委員長 (社員)	北海道学連委員長	三好 海智	出席	
	東北学連委員長	小野寺 陸	出席	
	関東学連委員長	清水 美海	出席	
	関西学連委員長	竹森 美優	委任状の提出	富野 航暉氏に委任
	中部学連委員長	吉田 翔一	出席	
	中四国学連委員長	西崎 太輝	出席	
	九州学連委員長	野中 結貴	出席	
全日本 学連	全日本学連員長	白井 紫音	出席	
	全日本学連副委員長	大口 尚真	出席	
	全日本学連副委員長	富野 航暉	出席	
	全日本学連会計	林 忠男	出席	
	全日本学連会計	壁谷 桜子	欠席	
オブ		有田 媛香	出席	
		富田 妃奈乃	出席	

議 題：

「決議事項」

①理事及び監事の選任又は解任（第13条第1項）

→任期中により該当者無

②第13条第2項～第7項

→該当決議事項無

全会一致で決議された。

「承認事項」

①社員交代：各地区学連会長・各地区学連委員長

資料に基づき承認された。

「報告事項」

①2025年度理事会決議事項及び2025年度全日本学連業務執行報告
&決算報告並びに2026年度全日本学連業務執行計画&予算

②2025年度全日本学連監査報告（会計監事・業務監事）

③2025年度各地区学連事業報告&決算報告

④2026年度各地区学連事業計画&予算

「その他」

①来年度全日本学連学生役員3役（全日本委員長・全日本副委員長2名・
会計）について

白井全日本委員長から推薦理由書を基に説明があり、全会一致で承認された。

「報告事項」①及び②：2025年度理事会決議事項及び報告事項

理事会決議事項報告は添付資料の通り。

(1) 2025年度全日本学連業務執行報告及び2026年度業務執行計画

(第32条第2項・第3項)

会 長：1) 一般社団法人化（2025.3.27.登記）に伴う組織改革

①定款・細則制定→理事会・社員総会・運営本部・学生委員会・地区委員会

②設立時選任：役員・理事会（常務理事）・業務分担（業務執行理事）・監事・
社員・会計・学生役員

③会計監査業務（会計決算処理・税務処理）を外部委託

2) (一社) 大学スポーツ協会（ユニバス）加盟（2025.5.30.）

3) 全日本学連・日本バドミントン協会・大学スポーツ協会（ユニバス）の
三者間の連携協力体制の確立を推進

①（公財）日本バドミントン協会との協議によりナショナルチームに

- U24 カテゴリーが新設（選手強化）→大学生の選考方法を確立する
- ② ルール変更（15点3ゲーム）への対応
 - 2026年4月のBWF理事会にて決定予定
 - 導入時期&該当大会を選定する
- ③ 2026年度（公財）日本バドミントン協会インターンシップ継続実施
 - 大学スポーツ協会ユニバスアワードと連携
- ④ 協賛企業（スポンサー）の獲得拡大を協働→継続実施
- 4) (一社) 大学スポーツ協会との連携協力推進
 - ① ユニバスアワードに立命館大学「大学生による持続可能なジュニア選手指導体制の構築」を推薦
 - デュアルキャリア形成支援優秀取組賞入賞
 - ② (一社) 全日本学生バドミントン連盟
 - 大学スポーツ組織運営優秀取組賞入賞
- 5) 会員数の拡大→同一法人の短期大学と四年制大学の合同チーム編成
- 6) 協賛企業の獲得拡大に向けて情報共有の強化と広報手段の拡大
- 7) 大会参加資格認定システムを導入
- 8) 大会運営の改革→大会様式の改革&組み合わせ基準改定
- 9) 選手強化合宿の実施→トップ選手強化&育成選手強化→拡大継続実施
- 総務部：1) 大会参加資格認定システムの地区学連導入について
 - チェック時期及び連盟登録（審判資格）の手続き完了時期の方向性を決定
- 2) ユニバス安全安心認証（UNIVAS SSC）制度加入について
 - 2026.1.13.正式加盟を決定
- 競技部：1) 2025FISU ワールドユニバーシティゲームズ&合宿
- 2) 2025 全日本総合&直前合宿
- 3) 2025“YONEX 杯”国際バドミントン精英招待大会について
- 4) 第39回日韓バドミントン競技大会について
- 5) 全日本大学対抗戦組み合わせ基準変更
- 6) 全日本選手権大会組み合わせ基準変更（スーパーシード導入）
- 7) 2026年度業務執行計画
 - ① 全日本インカレ大学対抗戦組合せ基準変更について決定

令和7年度の変更を分かり易く文章化した。(資料参照)

東西インカレの結果を基に、東西毎に1～8位まで大学ランキング表を作成する。

東西インカレの結果で3～4 / 5～8の区分に入った地区で抽選を行う。

同じ区分において同地区の場合は抽選ではなく地区大学ランキング表を優先してシードにあてはめる。

② 学生の2級審判資格取得方針について決定（資料参照）

学生の審判能力向上及び2級審判資格者不足解消のためには有効である。

《受験資格》

1) 日本協会主催の第1種大会またはそれに準ずる地区大会において5大会・70試合以上の実務を経験した者（1種大会に準ずる大会であれば主審をする事で実績として登録できる：全日本インカレ、全日本学生大学対抗戦、東西インカレ、地区大会、地区リーグ戦）。

主審の実績については、所属県協会に報告し登録をしてもらう。

2) 3級審判資格取得後2年以上経過した者。

※上記1) 2) どちらかをクリアした際、所属している県協会で開催される2級審判資格検定を受講する。

※1) について

- ・各地区に審判担当責任者(会長又はそれに準じる大人)1名を配置する。
- ・地区大会ごとに審判実績の書類を作成し所属県協会に提出する。
- ・東西インカレ、全日本インカレ、全日本大学対抗戦の審判実績の書類を作成し所属県協会に提出する。
- ・大会の事前に所属県協会に登録してもらえるか確認する。

③ 学生の3級審判資格取得について実施に向けて方向性を決定（資料参照）

3級審判資格は全日本インカレ出場要件であり、学生（選手）の審判レベル向上の為に必要であるが、一方では資格取得を強制することで登録者数の減少が懸念される。

東西インカレは全日本インカレの予選会と位置付けられており、全日本インカレに出場する選手はルールを熟知する事が必須であることから、東西インカレに出場する選手も3級審判資格を取得する事が望ましいと考える。

2026年度は案内期間とするとともに、東西インカレ申込時点で3級審判資格の取得率を調査確認し、その調査結果により強制可能 or 任意を判断し、可能な場合は2027年度から実施（2年生～4年生：3級審判資格必須、1年生：猶予期間1年間；全日本インカレは必須）する。

④ 4 大大会開催期間と担当主管学連について実施に向けて（資料参照）

1) 日程の設定については国民スポーツ大会（含ブロック予選）の日程を考慮する必要がある。

2) 東西インカレに関しては、試合日程が長期化していることから大会運営が非常に困難（過重負担）になってきている（体育館確保等）。この課題に関しては、井上理事を座長として地区委員会に各地区委員長を加えた会議

で意見を集約して運営本部に報告し、理事会で協議する。

- ・東西インカレ 8月第4週土曜日スタート（準備日含め10日間）

開始：8月21日～27日 終了：8月29日～9月4日

- ・全日本インカレ 10月3週目火曜日スタート（準備日含め7日間）
- ・全日本大学対抗戦 11月2週目金曜日スタート（準備日含め4日間）

※全日本インカレ、全日本大学対抗戦は前後1週間の期間幅で検討予定。

※社員総会では上記の方向性で確認された。

※詳細については来年度地区委員会(前出；各地区会長+各地区委員長)を開催し、担当学連割り振り及び開催日を協議して運営本部に報告し、理事会で決定する。

- ⑤ 4大会エントリー締め切りから組合せ会議までの流れを決定（資料参照）

資料の通り全会一致で確認された。

- ⑥ 今後の全日本学生大学対抗戦について（団体戦の運営、進行について）実施に向けて方向性を決定（資料参照）

- 1) 連盟認知度及び登録者数の拡大策として非常に重要な課題である。
- 2) 完了までかなりの準備期間と経費が必要になるが、④の協議結果を踏まえながら、2026年度から実行可能な企画から順次実施していく。
- 3) 実施には各地区学連の運営能力の底上げが必要である。
- 4) 立ち上げまでは大変だが、学生主体で運営が可能になれば学連としての一定の意義がある。
- 5) 全日本インカレの会場を固定化する事には一定の成果が期待できる。

- ⑦ 2026 アジア大学選手権大会について決定（資料参照）

下記の通りに全会一致で確認された。

大会期間：2026年6月10日～14日

開催場所：台北（チャイニーズ・タイペイ）

派遣期間：2026年6月8日～15日

派遣メンバー：スタッフ最大3名、男女最大6名ずつ

（男女混合団体、男女シングルス3、男女ダブルス3、混合ダブルス3）

男子シングルス 山田琉碧（日本体育大学2年）

藤原睦月（明治大学4年）

男子ダブルス 櫻井煌介（法政大学4年）

南本和也（法政大学4年）

女子シングルス 横内美音（筑波大学2年）

今泉明日香（日本体育大学3年）

女子ダブルス 牧野美涼（法政大学3年）

上野凜（法政大学2年）
混合ダブルス 犬嶋宏介（日本体育大学4年）
今村涼（青山学院大学4年）
残り男女1名ずつ 安保武輝（筑波大学4年）
玉木亜弥（筑波大学2年）
スタッフ 大東忠司（日本体育大学）、升佑二郎（法政大学）、吹田真士（筑波大学）、古財和輝（龍谷大学）、有吉晃平（大阪体育大学）

⑧ 国際大会に派遣する選手のメンバー選考について決定
今後の国際大会に派遣する選手は在学学生のみとし、卒業生は含まないことを全会一致で確認した。

広報部：1）協賛企業の獲得状況&獲得スポンサー料（資料参照）
2）2026年度協賛企業獲得計画及び広報計画（資料参照）
2025年度の協賛（スポンサー料）獲得状況と2026年度の協賛獲得計画及び広報計画が全会一致で確認された。

（2）第32条第5項は該当事項無

（3）2025年度全日本学連事業報告&決算報告
並びに2026年度全日本学連事業計画&予算
白井全日本委員長から各々の報告があり、全会一致で確認された。

（4）監査報告：会計監査報告（町並監事）&業務監査報告（喜多監事）（第26条）
1）2025年度決算報告書及び2026年度予算書について会計監査報告書の通り会計は適正に執行されていることを全会一致で確認された。
2）2025年度事業報告書及び2026年度事業計画書について業務監査報告書の通り業務は適正に執行されていることを全会一致で確認された。

（5）2025年度各地区学連事業報告&決算報告及び2026年度各地区学連事業計画&予算
各地区から事業報告書&決算報告書ならびに事業計画書&予算書を基に報告があり、中部学連以外は若干の軽微な修正をして全会一致で確認された。

※中部学連は「2025年度全日本学生バドミントン大学対抗戦決算報告書」「2026年度全日本学生バドミントン選手権大会予算書」「令和7年度中部学生バドミントン連盟事業決算書」「令和7年度中部学生バドミントン事業予算書」の全ての帳表において、認識不足による稚拙な誤りが多数あるため再提出を課した（訂正帳表提出&内容確認：2026.2.28.）。

(6) 大会参加資格認定システムについて：チェック時期及び連盟登録（審判資格）の手続き完了時期

以下の内容が全会一致で確認された。

- 1) 東西インカレ組み合わせ会議日までに日バ&全日・地区連盟登録完了する
- 2) インカレ参加申し込み時点での「登録申請中」は認めない
- 3) 地区学連での運用導入については 2027 年度を目途に 3 級審判資格取得（上記③）を含めて東西インカレ参加申し込み時点とする
- 4) チェック手続きの責任者は 2 名担当も可能である。
※以上の内容を 2026 年度当初に有吉理事から各地区学連に説明される。

(7) ユニバス安全安心認証（UNIVAS SSC）制度への加入について

2026.2.1.正式認証され、具体的な手続きに関しては、インカレ（団体・個人）の際に有吉理事から各主管学連に連絡する事が確認された。

(8) その他

- 1) 全日本学連預金口座の作成・統合について
 - ① （一社）全日本学生バドミントン連盟名義の銀行口座（みずほ銀行）を新規作成したことから、現有する旧口座（2 口）の残預金を統合して新口座に移動する。
 - ② 現有するゆうちょ銀行口座の名義を（一社）全日本学生バドミントン連盟に変更する。

以上が全会一致で確認された。

2) 育成選手の合宿

- 7 地区学連会長推薦選手（各地区数名程度）
- 実業団チームと男女別に合宿（2 泊 3 日予定）
- 集合離散費：選手負担（地区学連が負担援助も可能）
- 宿泊費：各地区学連負担
- 会場費・コーチ謝金・シャトル代：全日本学連負担

以上が全会一致で確認された。

3) 全日本学連会長から 7 地区学連会長および委員長への要望

- ① 1 種大会（インカレ）の運営について：
 - ・ 1 種大会（インカレ）は主催が「(公財) 日本バドミントン協会」と「(一社) 全日本学生バドミントン連盟」との**共催**である。
 - ・ **開催地都道府県バドミントン協会**が「主管学連」と共に「**主管**」の立場にある。

- ・(公財)日本バドミントン協会と(一社)全日本学生バドミントン連盟からは大会運営に関する**補助金が交付**される。
 - ・(公財)日本バドミントン協会からは**1種大会に適合する大会運営を求められる**。
 - ➡対外的交渉(地元協会との事前協議等)・対外的書類扱い(申請・依頼等)・会計処理・会場設営&使用器具整備・試合進行・式典運営・式典臨席者連絡等々の**指導と最終確認**は主管学連会長の重要な役目であり、全てを学生任せにしない。
 - ➡学生役員も「地区大会」と同レベルの大会準備・大会運営ではないことを十分に認識する。
- ② 学連運営、特に会計処理については、公金(交付金及び会費や大会参加費)であることを十分に認識し、**責任感を持って法に適合した処理**をおこなう。

議事録署名人

(一社)全日本学生バドミントン連盟

代表理事・会長	北見正伸
常務理事・副会長	平野泰宏
常務理事・広報部長	渡辺英次
常務理事・競技部長	大東忠司
常務理事・総務部長	井上 翼
常務理事	有吉晃平
常務理事	古財和輝

議事録署名人名

(一社)全日本学生バドミントン連盟

代表理事・会長	北見正伸
常務理事・副会長	平野泰宏
常務理事・広報部長	渡辺英次
常務理事・競技部長	大東忠司
常務理事・総務部長	井上 翼
常務理事	有吉晃平
常務理事	古財和輝